



# 心と心をつなぐ ココロード通信

滋賀県土木交通部道路課

## お知らせ

- ココロード通信平成20年度第3号をお届けします。

ココロード通信は滋賀県HPでも閲覧できます。

<http://www.pref.shiga.jp/h/doro/>

### ・「道の相談室」

(近畿地区全域)

～「道」についてのご質問・ご相談にお答えします～  
フリーダイヤル

どーろ よくなれ

0120-106-497

ご利用時間は

9:30～17:00です。

FAX:06-6942-9638

終日利用可能です。

インターネットアドレス

<http://www.kinkiroad.org/soudan/>

終日利用可能です。

- サイクリングルートマップ「ぐるっとびわ湖サイクルライン」が新しくなりました！

道路課にて配布中です。郵送でも可です。

<http://www.pref.shiga.jp/h/doro/cycleline00.html>にて、郵送方法をご確認下さい。



# 新名神高速道路 開通!



## 日本のまん中! 大動脈(亀山JCT~草津田上IC間)が開通しました!



2008年6月30日まで  
早期開通割引が実施されます。

通行料金等のお問い合わせ NEXCO西日本お客さまセンターTEL0120-924863  
西日本高速道路株式会社 <http://www.w-nexco.co.jp/>

今回開通した区間には、信楽ICや甲賀土山ICがあり甲賀地域へのアクセスが便利になります。

この甲賀地域には、全国的にも有名な信楽焼や甲賀の里「忍術村」をはじめ、国宝級の古社寺が点在するなど、観光資源も多く大変魅力に富んだ地域です。

また、自然にも恵まれ、咲きほこる花々や草木に触れたり、風や光を感じながら癒される空間もたくさんあります。ぜひ一度はお出かけになってみてはいかがでしょうか。

また、三重県への移動時間も短くなり、伊勢市や鳥羽水族館などの観光も手軽に楽しめるようになります。

## 未着工区間の早期着工を! 全線(名古屋~神戸)早期整備を!



大津より西側は、工事着工の目途が立っていません。

新名神高速道路が全線開通すれば、渋滞の緩和に伴うCO2の一層の削減効果や地震などの災害時の代替機能を発揮することができます。一日も早い全線早期整備を求めています。

(高速道路推進室)

## 滋賀県道路整備アクションプログラム

県ではアクションプログラムを平成15年に策定しましたが、社会情勢の変化に応じ適宜見直すこととしており、公表から5年が経過する今年度、見直し作業を行いました。

### 見直し作業の流れ

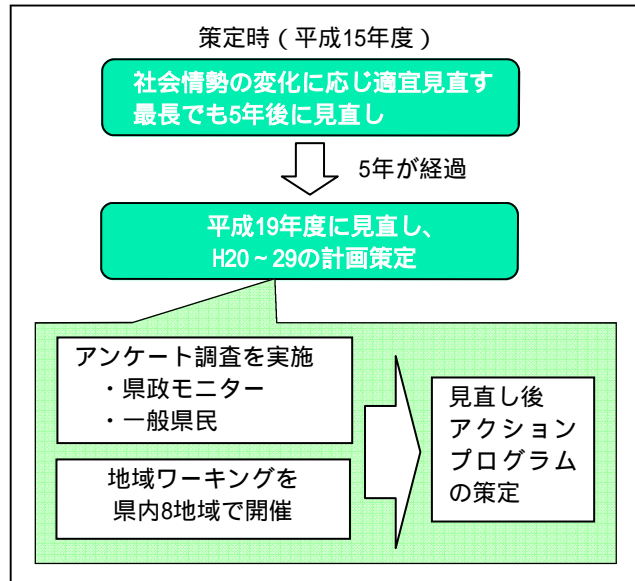
アンケート調査や地域ワーキングを行い、各地域からご意見・ご提案をいただいたものをもとに、全県でとりまとめました。

### 見直し後のアクションプログラム

- ・平成20年～29年度までの10年間の整備計画です。
- ・地域に真に必要な道路に「選択と集中」をし、必要な道路の基盤整備を進め、道路施設の適切な維持管理を行います。

### 公表予定

平成20年度の早い段階で公表する予定です。



(道路企画担当)

## 開通しました！ ～国道477号大河原バイパス～



一般国道477号は、三重県四日市市から大阪府池田市までの、230kmの道路です。

甲賀市土山町大河原地先の大河原バイパスは、道路幅が狭く、大型車のすれ違いが困難な橋で混雑することから、古くなった橋を架け替えるとともに、カーブが連続する区間をバイパス整備することにより、安全で安心な道路を造ります。

平成14年度から事業を始め、平成20年3月10日に開通することができました。

この道が開通したことにより、甲賀・東近江地域と三重県中部地域間の交通がスムーズとなり、文化経済交流のますますの発展が期待されます。

(道路建設担当)

## 「自転車通行環境整備モデル地区」 県内で2地区を指定

近年、歩道における歩行者と自転車との事故が社会的な問題となってきていることから、自転車通行環境を整備するモデル地区として、県内では瀬田地区と南草津地区の2箇所が指定されました。

今後、これらの地区において安心して走れる自転車道の整備を進めていきます。



(道路保全担当)

## 編集後記

この1年間、広報誌の作成に協力してくれたスタッフの一言感想です。

これからの行楽シーズンに新名神を使って出かけてみたいと思います。みなさんどうですか？ 井元

最近、合戦物のテレビを見たときに、道が気になるようになりました。 櫻井

道路の話題もりださんの一年でしたが、来年度はどうなることやら・・・？ 清水

来年度のココロード通信もデザインとカラーにこだわりま～す。 林

編集委員を3年間つとめて、少しずつ滋賀県のことがかかってきました！ 湯浅